

## ふるさとテレビ関係者 ならびに視聴者の皆様へ



国土交通省事務次官  
増田 優一

「ふるさとは 遠くにありて 思ふもの」室生犀星と同じふるさとを持つ私も、ふるさとを離れて40年余りが経ちました。犀星と同様、やはりふるさは私の心の支えです。

大都市への人口集中が進んでいる現代日本では、私のように自分の出身地としてのふるさとを持つ人も少なくなっています。人口減少・高齢化が進む現代日本に住む我々にとっては、出身地か否かではなく、心のよりどころとなるものとして、ふるさを捉えるべきなのではないでしょうか。

一方で、外国から日本のふるさを考えてみます。今、私たちは、今年の訪日外国人客数をなんとか1000万人という大台にのせるように挑戦しています。さらに訪日外国人2000万人という高みを目指して取組を加速させています。まさに、その最中、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まりました。

これは、東日本大震災から復興し、アベノミクスで元気を取り戻した日本を世界中の人々にアピールする絶好の機会です。大都市ばかりでなく、日本のふるさともより多くの外国人に訪問してもらい、その温かみを感じてもらいたいとの思いを強くしています。

ふるさとテレビは、インターネットという時間・場所を選ばないツールを用い、世界中・日本中の人々に対して、豊富で、幅広い情報発信に取り組んでいます。これからも、ふるさとテレビが、日本の魅力、地方の個性を世界中・日本中に発信しつづけることで、ふるさとの美しさ、すばらしさがより多くの方々に伝わっていくと確信しています。

今後とも、ふるさとテレビが観光立国の実現へ導く立役者となるよう、一層のご発展をご期待申し上げます。

平成25年12月